

## 第2回 白石地域部会 議事録

場所：白石区役所 2階会議室 廊下側

日時：R4.5.18（水） 10:30-12:00

### ○出席者

常盤野会長・齋藤副会長・宮西副会長・相談室きよさぼ岡崎氏・竹本氏・ワンオール赤杉氏・  
こころか服部氏・相談室あゆみ岸井氏・菊地氏・ピアデザイン稲垣氏・ビビット南郷田中氏・  
夢民戸田氏・主査佐藤氏・事務局西町

### ○欠席者

社協柳氏

### 【連絡事項】

豊平区の小熊氏より重度心身障がい者の非定型の課題について常盤野がレクチャーを受け  
る。白石地域部会としては、大きな議題には取り上げられないが、関心をもって動向を見守  
ることを伝える。

### 【協議事項】 進行：相談室あゆみさん（3回を予定）

### ○部会の意思決定・合意形成について

- ・運営部会委員の過半数が出席し、出席した運営部会委員の過半数により決定するものとする。(案)
- ・決議に関しては1事業所単位として1が良いのではないか。
- ・この場合、次回開催の際の参加者を把握するようにしないといけない。
- ・部会案内後、返信のない方は出席予定と認識。欠席の場合のみ連絡をもらう形としたい。
- ・夢民、ワンオール、白石区はオブザーバーのため、票は持たない。

➡規定変更。佐藤主査へ依頼。

### ○会員への運営部会の報告方法

- ・全会員にメールして良いか。
- ・コロナ禍で会員の集まる機会がないため、会員が把握する機会も圧倒的に減少。
- ・HPに載せることも可能だが、現行ではアクセスが非常に複雑となっている。
- ・これまでの白石地域部会は会員登録をしている方への案内範囲は全会員としていた。これ

は区によって対応が異なる。会員の概念がない区がほとんどである。

- ・ これまでもありのままを記載してきた。修正はもちろん行う。
- ・ 誰がどのような発言をしたのかという詳細までは不要かも。

流れ 議事録作成➡ 参加者内共有➡ 修正➡ 会員へ公開 とする 決定

#### ○持ち回りの運営方法について

- ・ 良いのではないか。
- ・ 8月以降は他者へ交代。 合意
- ・ 前半 45 分は連絡事項中心、後半 45 分はケース検討で構成を検討したい。充実した全体会・定例会に繋がるようなことがしたい。
- ・ 賛成です。

#### ○定例会の開催について（協議事項）

- ・ コロナ禍で未開催が続いていた。今後は運営、会員にカテゴライズされずに集まれる場を考えた。これまでは会員向けに案内し、勉強会等を二か月に一回開催し、未開催の月は何らかの企画をしていた。もう少しゆっくりしたペースで、大枠の中で考えていきたい。二年間何も開催していないため、そろそろ始めたい。
- ・ これまでは出欠確認を取っておらず、当日の人数把握ができないため、今後はテーマを決め、出欠を取って行いたい。
- ・ こども部会、就労部会は分野に特化した研修を行っているが、それ以外のテーマで呼びかけて来てもらうイメージ。企画開催はこの中の人間が負担することとなるため、段々と苦しい状況になった過去がある。
- ・ 白石地域部会発足当初は毎年市民向け講演会で三丁目食堂事件を取り上げた事もある。そのような大きなことは現在は難しいので、まずは、現場で働いている人たちが疲弊しない範囲での開催ができると良いのでは。
- ・ 小さな単位のものが複数あり、行くたびにランダムで、進行役は一応いるが、その後は温まっていくような場が良いという。
- ・ 元々それを目指し、行ってきた。しかし、準備の部分での負担がやはり大きくなっている。
- ・ 障がいのある方の暮らしを知る、ということが大切で、このような背景を知ることが大切。生活保護ってどういうものか、金銭管理ってどんな風に行うのか、障害年金とはそもそも何なのか、男女交際でのもつれ、などの共通した大きなテーマだと面白そう。よく知らずに働いている人も多いのではないか。
- ・ 区ではハード面の貸し出しができない、電波がない、など負担があって困った。
- ・ 予算は8万ほどだが、講師の謝礼金に使用することがほとんど。
- ・ 区にある PC は、外部には貸し出せない。区の職員が使用するのは問題ない。主査が参加

すれば問題ないのか、確認をしてみようと思う。

・お祭りみたいなイベントはどうか。

・定例会を設けた際に、コーナーを設けて周知できるものがあると良い。物を売るとなると、必ず規定に引っかかってしまう。

・初回開催日をまず決めて、ゆっくり話し合っていこう。9月頃の開催を目標に、何をどうするのか、決めていく流れとする。 ➡ 全体合意

### ○こども部会

アタッチメントの研修を実施。アンケートは好評。子ども部会副部会長が安田氏に変更となった。児童デイサービスが専門性を要求されるのに、資格や経験のない方が療育をしているということに対する設立目的であるため、年4回程度の研修会を引き続き行っていく。

### ○就労部会

支援者が集まって話し合える機会を作ることを検討。気軽に仕事でうまくいっていないことなどが話せる場だと良い。18:00-20:00 で年間3回の実施を検討。新人からベテランまで参加OK。ハイブリッド開催を予定。

### 【事例検討について】

#### ▶男女の恋愛関係

利用者で男性スタッフに好意を持った。面談で告白。断ったが、微妙な空気になり、男性職員が精神的にまいっている。諦めてくれない状況。二人きりの作業中にも言ってくるようだ。現在進行形。利用者の訴えによる職員のダメージという視点。

#### ▶ハラスメント

要求が多く、他の指定相談で対応できなかった方が来ることがある。モニタリング訪問が23時までかかったり、一対一にならないように配慮したいが、予定がうまく組めない。

#### ▶生活の再構築

コロナで通所ができなくなり、体も衰弱している方。入院したこともあったが、退院時は元気だった。高次脳機能障がい。感情の起伏はもちろんあるが、体力低下が著しく、後々の生活をどう組み立てていくのか困っている。

#### ▶地域を巻き込んだ関わり

GH 居住者、未成年。被虐待児で精神科にかかる。入院中からコミュニケーション面に課題があり、GHに入り、今までのことを職員に試し行動、アピール行為が激しかったが、2年くらいで落ち着いてきた。医師を巻き込んで、医療、地域が一体的となって方向性をそろえ

る。白石区内交番にもよく知られ、警察とのやり取りも日常的に行っている。自立助長を第一としたいが、本人に関わる全ての人が同じスタンスを持つことが難しい。

#### ▶利用者と職員の距離

利用者との距離感。距離の取り方が遠い、近い、ということが難しい。メンバー同士でグループラインがあるようだが、そこで職員の悪口などが話されている。休みのメールがあっても、形式的な返信を返すと、もっと具体性を求められたことがあった。

#### ▶家族全体への支援

家族全体に障がいあり、養育、成長、離婚、色々な動きに対応するむずかしさ、何を中心に考えるべきか、など。人との関係で制御能力が難しくトラブルが起きて省かれて孤立する方もいる。

#### ▶GH生活者への生活支援

金銭管理、体重管理、戸建て型のGHに入っていた。ネットで頻回に買い物をし、住めなくなった。現在はB型管理者が金銭管理を行い、アパート型のGHへ転居。体重が110キロを超える。医者も入院をすすめていたが応じず、結果的に健康診断という形で入院。退院後、服薬、食生活を本人が取り組めるようにやりたい。

#### ▶引きこもり・若者支援

引きこもり 若者支援 こういう支援でいいのか、という視点で皆で考えたい。就職できたことはよいが、引きこもっていたことにどこまで共感ができるのか。就職すればそれでよしではないと思っている。